

13 かつて孔融が韋康・韋誕の兄弟の息子を持つ父親にいった言葉が、(親の目からみて)この兄弟に比すべき我が子らを失った悲しみとして(一層つらく)響いてくる。

(\* 晉陳寿撰『三国志』魏志・荀或伝の裴松之の注に見える逸話。韋康・韋誕の兄弟が二人ともすぐれていたので孔融という人が二人の父親に「あなたのような年老いた蚌(はまぐり)から二つの真珠が採れようとは」といったという故事を踏まえる) (静永健氏 教示)

14 また莊周が、子孫は天地から委ねられた抜け殻のようなものに過ぎないと説くのを見るにつけても 私はやはり麻呂を思い出して、秋の初めに鳴くひぐらしの声に泣かずにはおれない。

15 どうしてこの悲しみに堪えられよう、おまえの小さな妹が、(またおまえが死んだということが理解できなくて)おまえの名を呼んで探し求めるとき

16 まことに忍び難い、おまえの母親が、ほとんど命も堪え難げに嘆いているのを見るのは、最初、少しお腹がしくしくすると言っていたが

18 どうしたことか、急に煎るような激しい悲しみに襲われたのはいったい何によるか。

#### 【四段】

19 木の弓と蓬の矢(男子が生まれると、これで天地四方を射て、将来の雄飛を祈念した)は、まだ戸口に懸けてある。

20 籬にはまだ阿清が遊んでいた竹馬が、葛で作った鞭を添えて立てかけたままになっている。

21 庭には、あの子が戯れに植えた古い花の種が芽を出している。